

「千の葉の芸術祭」の総合ディレクターが決定しました！

千葉市では、令和7年度の千の葉の芸術祭開催に向けて、市内経済団体・文化関係団体等による実行委員会を設立し、準備を進めています。

このたび、本日7月21日に開催された第2回総会にて、総合ディレクターが決定しましたので、お知らせします。

1 総合ディレクターについて

なかむら まさと
中村 政人 氏

アーティスト／東京藝術大学美術学部教授・副学長

1963年秋田県大館市生まれ。

1993年「The Ginburart」（銀座）、1994年の「新宿少年アート」（歌舞伎町）でのゲリラ型ストリートアート展。秋葉原電気街を舞台に行なわれた国際ビデオアート展「秋葉原TV」（1999～2000）、「ヒミング」（富山県氷見市）（2004～2016年）、「ゼロダテ」（秋田県大館市）（2007～2019年）など、地域コミュニティの新しい場をつくり出すアートプロジェクトを多数展開。

1997年よりアート活動集団「コマンドN」を主宰。2010年民設民営の文化施設「アーツ千代田 3331」（東京都千代田区）（2010～2023年3月閉館）を創設。地域に開かれたアートセンターとして、約13年間運営を行う。

2001年第49回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館に出品。マクドナルド社のCIを使ったインスタレーション作品が世界的注目を集める。

2020年より「東京ビエンナーレ」の総合ディレクターを務める。

著書に「美術と教育」（1997）、写真集「明るい絶望」（2015）、「新しいページを開け！」（2017）、「アートプロジェクト文化資本論：3331から東京ビエンナーレへ」（2021）。

平成22年度芸術選奨受賞。2018年日本建築学会文化賞受賞。

2 総合ディレクター選考経緯

千の葉の芸術祭実行委員会部会にて総合ディレクター候補者を選定し、本日開催された千の葉の芸術祭実行委員会第2回総会において、総合ディレクターとして中村政人氏を決定しました。

3 選考理由

市民参加型の文化芸術事業の経験を積んでおり、それらの経験から、文化芸術を市民に身近なものと感じてもらい、親しんでもらえる事業を展開するという点について、中村氏の過去の実績から多いに期待できる。

また、中村氏はアーティストなど文化芸術分野の人脈が広いことに加え、地域の方々とも繋がりを深め、ネットワークを広げながら文化芸術活動を展開する手腕において高く評価できる。

＜参考＞

千の葉の芸術祭とは

千葉市では、市制 100 周年記念事業の一つとして、また、文化プログラムとして令和 3 年度に「千の葉の芸術祭」を開催しました。

芸術祭を一過性の取り組みで終わらせず、継続して開催することで、本市の文化芸術の振興に大きな役割を果たすことができると考え、芸術祭の定期的な開催に向けて、「千葉市芸術祭基本構想」を策定し、令和 7 年度での開催を予定しています。

千の葉の芸術祭実行委員会について

千葉市芸術祭基本構想内では、「新たな文化の創造と魅力の発信」「地域への関心や関わりの醸成」「多様な主体の尊重と繋がり創出」を目的とし、開催することとしており、本市のこれまでのまちとしての歩みや特色等を踏まえ、行政だけではなく、市民や企業、団体など千葉市に関わるさまざまな主体との関わりあいのなかで、本市ならではの新たな文化の創造と魅力を生み出し、それを広く発信していく芸術祭としていきたいと考えています。

そのため、千葉市芸術祭基本構想を策定して初の開催となる「千の葉の芸術祭」を成功させるためには、本市はもとより、産官学の各分野が協働し、千葉市に関わる人々の英知を結集し、総力をあげて取り組んでいくために、令和 5 年 3 月 30 日に千の葉の芸術祭実行委員会が設立され、第 1 回総会が開催されました。令和 5 年 7 月 21 日に第 2 回総会が開催され、総合ディレクターの選任が審議されました。詳細は市ホームページをご確認ください。

【URL】 <https://www.city.chiba.jp/shimin/seikatsubunka/bunka/sennoha-art-fes.html>

